

2026年度

## 第1回 入学試験問題

# 論理社会

(20分, 40点)

### 受験についての注意

1. 試験開始のベルが鳴るまで, 問題用紙を開かないでください。
2. 問題は, 問1～問4まであります。
3. 答えは解答用紙(別紙)の所定の欄らんに記入してください。
4. 解答用紙に, 受験番号と氏名を必ず記入し, 最後にもう一度確認してください。
5. 解答用紙だけを回収しますので, 問題用紙は持ち帰ってください。

次の資料1～7を参考にして、各問に答えなさい。

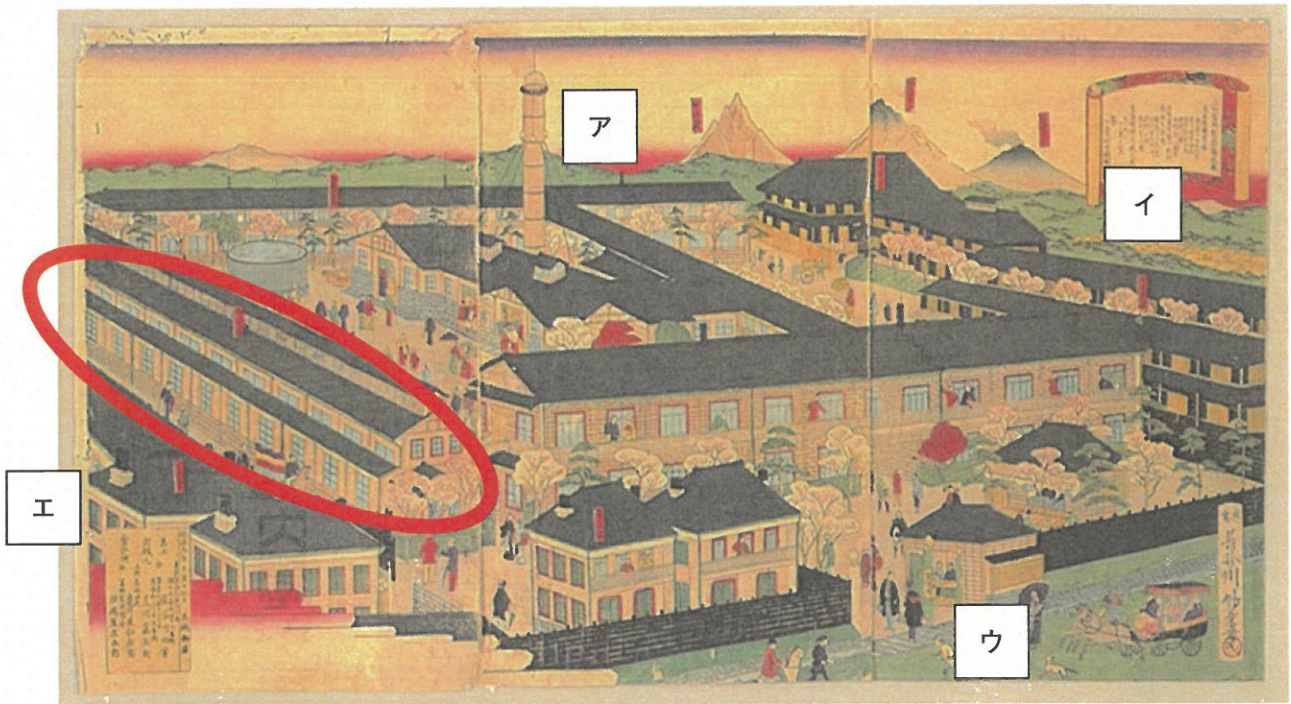
**資料1**

富岡製糸場は1872年に作られ、当時世界有数の規模を誇り、日本の生糸生産の技術を大幅に向上させました。富岡製糸場は日本の産業の発展を支え、2014年に世界文化遺産に登録されています。

日本は江戸幕府から明治政府にかわる中で、欧米諸国に追いつくことを目標とし、急速に近代化を進めました。その中で横浜商館に勤務しているポール・ブリュナなどが中心となり製糸場の建設に向けて調査を行いました。製糸場を作るためには様々な条件を満たす必要があり、その条件に合っていたのが、現在の群馬県富岡市だったことで、富岡の地に製糸場がつくられました。

1860年代にフランス、イタリアで「微粒<sup>びりゅうしびょう</sup>子病<sup>かいこ</sup>」という蚕の感染病が大流行して、フランス、イタリアの蚕の生産量が大幅に減少していきました。その結果、日本の蚕や生糸の人気が高まり輸出量が大幅に増加していくこととなりました。日本の生糸の輸出先は、はじめヨーロッパが中心でしたが、徐々にアメリカが中心となっていく、1929年には日本の生糸輸出量は世界市場の約80パーセントを占めるにいたりしました。

**資料2**



資料3

中央の富岡製糸場の正門から入ると正面に横長の建物があります。これが東置繭所ひがしおきまゆじょになります。ここは蚕の繭の保管所として使われていました。東置繭所の壁伝いに左に進むと出てくるのが繰糸所くりいとじょです。繰糸所は繭から糸を取り出す作業を行う場所です。繰糸所をまた壁伝いに真っ直ぐに進んでいくと西置繭所にしおきまゆじょが見えてきます。この3つの建物は国宝に指定されています。

西置繭所を再び壁伝いに進んで行くと寄宿舍があります。ここは富岡製糸場で働いていた人たちが住んでいた場所です。このように口の字の形に囲われた中に、高い煙突があり、ここが乾燥場かんそうです。生糸の原料の繭の中の蛹さなぎを殺し、繭を長期保存させるために乾燥させた場所です。乾燥場の左隣ひだりとなりには製糸に必要な水をためておくための巨大な水槽「鉄水溜てつすいりゅう」があります。

問1 資料2の○で囲まれた施設は何ですか。資料3を参考に次の中から選び、記号を答えなさい。

- ア. 西置繭所      イ. 鉄水溜      ウ. 乾燥場      エ. 東置繭所      オ. 繰糸所

問2 資料4の地図は現在の富岡製糸場付近の地図です。地図を見ると富岡製糸場の近くに釜川かぶらがわという川が流れています。この川の水を利用して工場が運営されていました。この釜川は資料2のア～エのどの方角にあるか答えなさい。また、なぜそのように考えたか50～65字で理由を答えなさい。

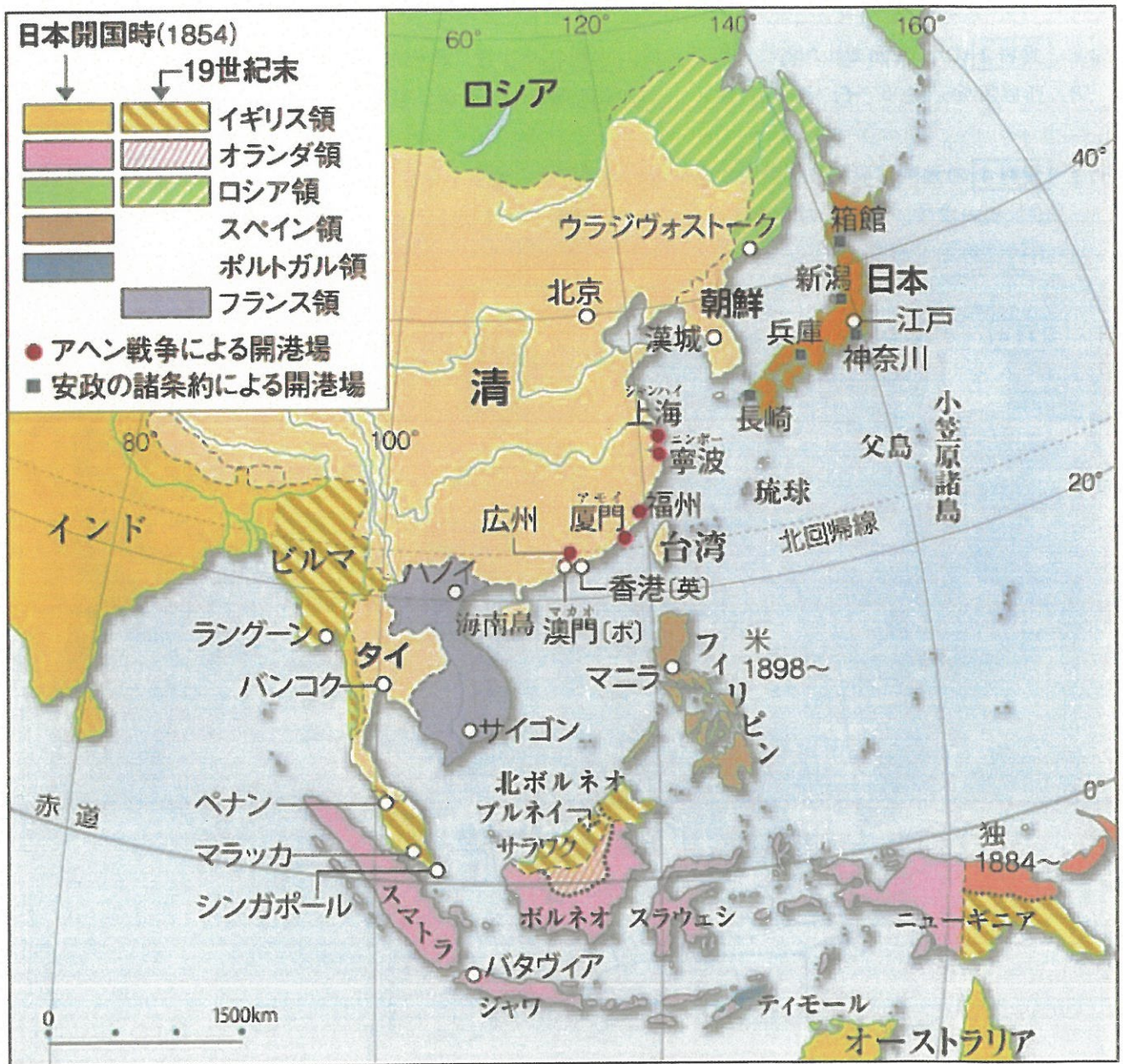
資料4



問3 **資料5・6**を参考に次のア～エの文章の中から内容が正しくないものを1つ選び、記号を答えなさい。

- ア. 日本はアヘン戦争の結果をうけて、<sup>いこくせんとうちはらいれい</sup>異国船打払令をやめて<sup>しんすいきゅうよれい</sup>薪水給与令を出した。
- イ. イギリスは19世紀末にかけて、ビルマ（現ミャンマー）などを植民地にし、東南アジア方面に<sup>えいきょうりょく</sup>影響力を拡大していった。
- ウ. 日本は日清、日露戦争、第一次世界大戦の結果、国際連盟の常任理事国になるなど世界に認められる影響力の強い国となった。
- エ. 日本は開国から明治政府ができるまでの間、アメリカと対等な関係で外交を行い、協力関係を築いていった。

**資料5** 19世紀後半の日本周辺の植民地の状況



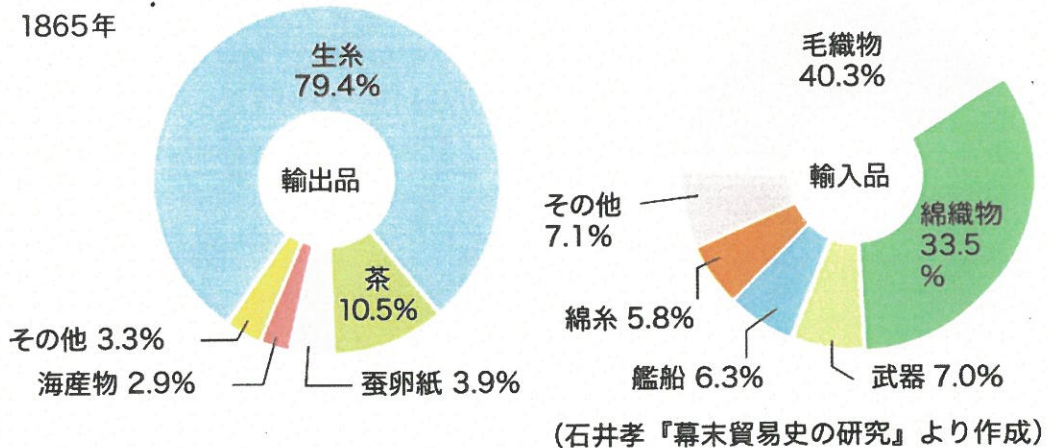
資料6 江戸時代後半から世界恐慌までの年表

西 暦	できごと	説 明
1825	異国船打払令	幕府は日本沿岸に近づく外国船を砲撃する命令を出した。
1840	アヘン戦争	中国がイギリスに大敗。 イギリスに対し中国は多額の賠償金の支払いなどを強いられた。
1842	薪水給与令	幕府は異国船打払令を撤廃し、来航した外国船には薪や水、食料を与え、すみやかに退去させることを命じた。
1853	ペリー来航	ペリーが江戸幕府に対し開国をせまった。
1854	日米和親条約を結ぶ	下田（神奈川県）と箱館（北海道）の2港を開港する。
1857	インド大反乱	イギリスによるインド支配への抵抗として起きた反乱。結果、イギリスに敗れ、イギリスによるインド支配がより強まることとなった。
1858	日米修好通商条約を結ぶ	日本とアメリカの貿易を認める条約。 日本の関税自主権が認められないなど日本に不利益な内容であった。
1867	おうせいふっこ だいごうれい 王政復古の太号令	徳川家による江戸幕府の政治から天皇による政治に代わることを宣言。（江戸幕府が滅亡）
1872	富岡製糸場完成	<u>政府が多くの費用をかけて建設した官営工場。</u>
1873	徴兵令	満20歳以上の男子は兵役の義務を負うことを定めた。
1894	日清戦争	日本と中国の間で起きた戦争。結果、日本が勝利した。
1904	日露戦争	日本とロシアが朝鮮半島や満州の支配をめぐる戦った戦争。 日本優位の状態で戦争を終結した。
1914	第一次世界大戦が始まる	1914年から1918年にかけて、ヨーロッパを中心に多くの国が戦った戦争。
1920	国際連盟発足	国際平和の維持を目的として設立された国際機構。その中で日本は常任理事国となった。
1929	せかいきょうこう 世界恐慌	アメリカから始まった世界的な不景気。

問4 **資料6**の下線部について、なぜ明治政府は多くのお金をかけて富岡製糸場を作ったのですか。またなぜ製糸場にしたのですか。当時の状況を踏まえて理由を答えなさい。

**資料1・5・7**も参考にして100～130字で述べなさい。

**資料7** 1865年の日本の主要輸出入品の割合



【典拠】

資料2

長谷川竹葉画『上州富岡製糸場之図』

[http://wul.waseda.ac.jp/kosho/chi05/chi05\\_4104/](http://wul.waseda.ac.jp/kosho/chi05/chi05_4104/)

「早稲田大学 古典籍総合データベース」より引用

この富岡製糸場の錦絵は明治6年（1873年）に描かれたものです。

資料4

地理院地図より引用

[https://maps.gsi.go.jp/#16/36.252882/138.880631/&base=pale&base\\_grayscale=1&ls=pale&disp=1&vs=c0glj0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f2&d=m](https://maps.gsi.go.jp/#16/36.252882/138.880631/&base=pale&base_grayscale=1&ls=pale&disp=1&vs=c0glj0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f2&d=m)

資料5

山川出版 日 B309『詳説日本史 改訂版』 p.250

資料7

山川出版 歴総 708『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』

日本の主要輸出入品の割合（歴総 708『現代の歴史総合』 p.37、カラー・モノクロ）

